三千五百八十三石五斗　礪波
千九百六十三石　射水
三千六百二十一石五斗　新川
右草高百石に付一石七斗九升三合七勺二才也。

一二三　口郡圖免御用廻先に出合候村々之事

寛保元年横山三郎兵衛圖免御用、羽咋・鹿嶋兩郡に罷出候節、堀松村故平七郎組之内百姓共、三郎兵衛於廻先相續き、途中に出合候者共。

清水今江村　吉田村　梨谷小山村　火打谷村
舘開村　德田村　谷屋村　栗山村
末吉村　米濱村　上棚村　矢駄村
独谷村　神代村
〆十四ヶ村

一二四　鹿島郡十村三階源五追込之事

鹿嶋郡無組御扶持人十村三階村源五儀、親故平内御扶持高之通被仰付被下候樣に、去暮奉願置候所、今般裁許組等之儀に付不念之趣御座候間、右願書付之内源五願之趣は指止申度奉存候。追而は樣子も見合、奉願儀も可有御座与奉存候。以上。

酉十一月廿六日　八人　判
三人　樣

右御算用場奉行加奥書、不破門左衛門兵庫と同じ、御用番迄上之。

右之節三階村源五・堀松村彌五郎代官取揚、追込に申付る也。

一二五　村御印損傷之節居出之事

村御印若致燒失候歟、又は雨漏に而損じ申節、御算用場に相達候得ば、右場印書替相渡り候儀、御存知之通に御座候。此儀は私共同役より取捌仕筈御座候所、中古御郡奉行衆より取次御座候御郡も有之候。是以後は一統私共より取時仕候間、兼而左樣御心得可被成候。以上。

（延享四年歟）五月十日

岡田一平太・永原半左衛門一通
松崎少左衛門・不破次郎太夫一通
千秋三郎太夫・菅野内右衛門一通
杉浦權佐・藤掛多門一通

一二六　檢地竿之事

一、檢地竿六尺三寸也。道元尺と唱候由、安見瀨兵衛申聞候。件之竿出來候節は、御普請會所に而申付候由、大塚彌五太夫物語也。

一二七　引免見立仕樣一卷條々

一、初日入札并用捨免之樣子相調、金澤殘居候同役に可内達事。
一、本田・新田相交り候場所者、新田裁許共可召連事。
（朱書。追加、當時は郡々に新田裁許人大方有之に付、本田見分所共に一人充召連也。）
一、新田・本田共見分相並候時は、本田より先に可致見分候儀宜候事。
一、初日見分之節、召連候御扶持人共に、精誠指詰可見立旨、猶更急度申渡候事。
一、見分之所に拔刈いたし置候はゞ、召連候御扶持人共に茂、能々拔刈之樣子爲見屆、扨作人は縮いたし、裁許之十村に相預け、十村之儀も不吟味之趣急度申渡、誤り紙面に而も爲致可申候。扨右作人之儀宥免相願候はゞ、其時分塩合を見合、見懲之ため、入札平均極り高之上二三歩上免爲致可申事。肝煎・組合頭も三日程縮いたし置、其後宥免可然事。
一、免狀相渡候時分、百姓共申分有之御請不仕旨、裁許之十村相斷候はゞ、右之趣書付爲相調、肝煎・組合頭并に其村之長百姓一兩人連判爲致可申候。小百姓共は連判相願候共、承屆申間敷候。勿論十村奥書を加へ可申旨可申渡候。畢竟肝煎以下之者下手人指人に被取申事故、内輪くづれに成訴訟止申物に候事。
一、右之通申渡候以後、心服いたし御請いたし候はゞ、始終之樣子得と相考置、翌朝に成、右訴訟いたし候村々肝煎・